

## 幕末明治の写真師列伝 第三十六回 内田九一 その一

横浜を代表する写真師、下岡蓮杖、初代鈴木真一について書いてきたので、今回からは長崎を代表する写真師、内田九一について語ろうと思う。

内田九一についての基本参考資料としては、内田九一の弟子の一人、飯岡仙之助の手記で、飯岡が内田九一自身から直接聞いて書き残した『故内田九一先生短歴』や、桑田商会編『月の鏡』の「故内田九一先生」の項、『写真新報』第162号明治45年3月号に原田栗園が書いた「本邦写真師列伝（其十四七）故内田九一」、『フォトタイムス』第8巻7号から10号までの梅本貞雄の連載記事「内田九一写真記」、斎藤月岑の『増訂 武江年表（2）』の「卷之九」（東洋文庫118 金子光晴校訂、平凡社、1968年）、梅本貞雄編『日本写真界の物故功労者顕彰録』（日本写真協会、昭和27年）の内田九一の項、『創業123年 改革への道』（内田写真株式会社、平成6年7月）などがある。また、内田九一については私自身も『幕末明治の寫眞師 内田九一 内田写真株式会社135周年記念』（内田写真株式会社、平成17年）を書いている。今回はこれらの基本資料を参考としつつも、それとは別に新たに調査して判明した情報も加味して、これらの参考資料を比較、検討、精査した上で、これから何回かに分けて書き残してゆくこととする。

まず内田九一の伝記をこれから回を分けて書いてゆくにあたり、『故内田九一先生短歴』が基本となる原資料であるので、これについては全文を公開しておきたい。（現所蔵者・内田写真株式会社）

### 故内田九一先生短歴 飯岡手記

先生諱ハ九一内田氏長崎ノ人「弘化三年生」《5文字加筆》世々長崎市ニ居リ醜ヲ鬻テ業ト為ス考諱ハ忠三郎妣某出ヅル所ヲ詳ニセズ忠三郎耆男ニ女アリ先生ハ即長、二女、永見、品川、両氏ニ嫁シ共ニ早世ス先生性堅忍能ク事ニ堪ヘ洞鑿神識少フシテ教ヲ叔父吉雄圭齋ニ受ケ居ルコト数年先生心竊カニ畫スル所アリ業ヲ菓種商ニ轉ジ専ラ出島大浦ニ出ヅ洋商ト相往來スニ於テ交ヲ蘭医ポンペー氏ニ結ビ乃チ写真術ヲ研究センコトヲ乞フ氏其志ノ易フベカラザルヲ見欣ビ之ヲ諾ス會々親友上野彦馬氏ナル人亦志ヲ相與ニ切磋ス而シテ全氏ハ即チ時計師ヲ業トシカヲ斯ニ専ラニスルヲ得ズ先生則チ潜心一意事ニ之ニ従フ是レヲ以テ其業大ニ進ム当時レンズ及藥品ノ價商ニ今日ニ百倍スルノミニアラズ人心尚蒙昧風化未ダ開ケザルノ時ニ方リ率先之レニ従フ其辛酸亦想像スルニ餘リアルベシ偶々津藩ノ土堀江欽四郎氏來ルニ會ス氏素蘭書ニ通ズ先生因リテ又氏ニ就テ藥学ヲ修メ以テ益々其技ヲ資ク先生ノ技術漸ク熟スルニ及ンデ慨然トメ以為ヘラク特技一郷中ノモノニ非ズ亦以テ天下ニ擴ムベシト郷ヲ去リ京阪ノ間ニ遊ビカヲ盡シ之レヲ勉ム方今寒村僻邑ニ至ルマデ斯術ニ乏シカラザルモノ蓋先生ノカナリ是實ニ慶應（一字欠）年今ヲ距ル数十年之前ニアリ時ニ尚未ダ火車輪船ノ便アラズ纔カニ一葉ノ扁舟ニ艤シ以テ風浪ヲ凌グ其行殆六十餘日ヲ費シ阪府ニ達スト云其艱難果シテ如何ンヤ先生浪花船場ニ居ヲトシテ名山大川ヲ歴遊シ足跡印スル所必ズ之ヲ撮影ス是ニ於テ斯術漸ク著ハル當時長

州征討ノ乱ニ際スルヲ以テ幕下諸藩士多クハ此ニ屯シ阪府ノ盛ナルコト前後其比ヲ見ズト云比ニ於テカ先生モ共ニ隆盛ヲ極ム先生時ノ將軍慶喜公ヲモ撮影センコトヲ乞ウ而シテ一布衣ノ力以テ奈何トモスベカラザルヲ悟リ故サラニ志ヲ枉テ主膳正忠恕大久保侯（大阪町奉行）ニ仕ヘ已ニ帶刀ヲモ許サレ用意怠リナシ而ルニ物議騒然遂ニ果サズ居ルコト式年幕府軍艦回天號東下スルコトヲ聞キ便乗ヲ乞ヒ始メテ江戸ニ出ズ時于慶應二年ナリ上陸後先生ノ器械藥品等鉄砲洲某倉庫ニ管ス適々某街火ヲ失シ延焼數町ニ及ビ管スル所ノ倉庫烏有ニ歸セリ器械物品ハ該前日搬出シ幸イ火災ヲ免ガル嗚呼一髮ノ期而シテ焚滅烏有ニ歸スレバ則チ先生ノ業モ亦蹉跎セザラント欲スルモ得ベカラザルナリ天能ク之レヲ援ケ事無キヲ得セシム豈又先生之誠能ク神ニ通ヅ外ニ非ラズヤ先生素ト典医松本良順先生ト善シ乃チ其下谷和泉橋通り松本先生邸ニ居リ百方之ヲ説キ大小諸藩幕下ノ士苟シモ天下ニ顯ハル々士其門ニ至ラザルナシ此ニ因テ人漸ク斯ノ技ヲ知ル是レニ先生ノ此ニ熱中スルノ致ス所ト雖モ仰亦松本先生ノ賜ト謂ザルベケンヤ居ルコト壺式年王政維新滿都騒然タリ良順先生モ亦東北地方ニ脱スルニ至レリ先生乃チ行李ヲ収メ横濱港ニ遷リ馬車道ノ巷ニ僑居ス時ニ賈人石川新助ナルモノアリ人トナリ義挙ヲ好ム又能ク先生ノ人ト為リヲ知り其奉ヲ壯トシ資ヲ投ジテ之ヲ資リ乃チ翌年某月馬車道ニ出テ老館ヲ建設シテ業ヲ開キタリ當時函館ノ戦報盛ニシテ官軍ノ往來スル者必ズ此ニ幅湊ス是レヲ以テ其撮影ヲ乞フ者日ニ數百人館上人ヲ絶タズ予輩二三ノ弟子亦寢食ニ暇アラザルモノ殆ンド數月先生ノ業モ是ニ於テカ成レリト謂ベシ頃日神奈川縣廳縣下流通之紙幣写真御用被命ニ縱事ス明治二年再ビ東京淺草瓦町江分館ヲ設ク先生豫テ俳優錦繪ヲ一新センコトヲ企畫シ遂ニ松本先生ニ料レリ能イ哉言ヤ予李園社会ニ知己多シ勉メテ援助セシ言ハ軟チ成レリ他日猿蓑町守田座ニ於テ（内田古一写真ノ姿画 名代世話狂言）ヲ演ゼリ是ヨリ先生ノ名都下ニ轟ク亦演戲写真開場ゴトニ写セリ是ヨリ後宮内省御用ヲ命ゼラレ諸城門等ヲ撮影ス次デ関西御巡幸供奉仰付ラレ夫ヨリ忝ナクモ兩陛下英照皇太后陛下ノ龍影ヲ揮写ス實ニ先生ノ名譽此上カアラン本邦開闢以來陛下撮影ヲ蒙リシハ先生ヲ以テ嚆矢トス是ヨリ先東北御巡幸ノ供奉ヲ命ゼラレ行在所及名所古蹟等ノ景地ヲ撮影獻納ス先生ハ技術ニ熱心ナルノミナラズ能他人ニ資ヲ投ジ開明ノ工業ヲ興サンコトヲ進ム實ニ博愛ノ人ト云ベシ天此善人ニ長寿ヲ借サズ明治九年二月九日肺患ニ罹リ病亡ス年説ニ三十有耆先生ニ嗣ナシ親戚馬田氏ノ長女良子ヲ以テ嗣トス嗚呼惜哉遺體ハ府下北豊島郡王子邸梶原郷土松本氏ノ墓地ニ埋葬ス會スルモノ殆ク有テス下文ニ記スルモノ門弟トス

故 内田清介  
新井八郎

飯岡仙之助

故 長谷川吉次郎

故 古賀金吾

（森重和雄）